

第 3 章



全体構想

1. 将来都市像	30
2. 都市像実現のための方針	33
2-1. 土地利用の方針	34
2-2. 市街地の整備・保全の方針	43
2-3. 住環境に関する整備方針	56
2-4. 交通体系に関する整備方針	66
2-5. 都市環境に関する整備方針	
① 水とみどりのまちづくり	77
② 景観まちづくり	88
③ 環境まちづくり	96
2-6. 防災に関する整備方針	
① 防災都市づくり	102
② 復興都市づくり	112

1

将来都市像

1-1 将来都市像

～まちづくりの基本理念～

地域力で育む 暮らしやすいまち 活力あふれるまち 江戸川

本区は、平成 11 (1999) 年に江戸川区街づくり基本プランを策定し、「暮らしやすいまち江戸川、活力あふれるまち江戸川」を基本に区民が愛着の持てるまちを目標に地域特性を活かしたまちづくりを着実に進め、快適に暮らせる都市へと発展してきました。

しかし、昨今の人口減少、少子化、超高齢化などの人口構造の変化により、今後は、都市活力の低下、都市間競争の激化、税収の減少など様々な課題の深刻化が懸念されます。

このため本区は、貴重な地域個性・資源を活用しながら、区民、事業者、区の協働により、地域力あふれる、魅力あるまちづくりを推進していかねばなりません。

また、人々が活発に交流しにぎわいをもたらすことにより、住む、働く、観る、楽しむ、学べるといった充実した様々な都市生活を可能にするとともに、今後起こりうる巨大地震や大規模水害などといった自然災害への対応により、誰もが安全で安心して暮らせる持続可能なまちを形成していくことが重要です。

以上のことを踏まえ、4つの将来都市像を設定しています。

～将来都市像～

- 都市像① 地域の魅力が人をつなぐ「活力交流都市」
- 都市像② 温かな地域コミュニティが支える「生涯生活都市」
- 都市像③ 水とみどりが暮らしに憩いを与える「快適環境都市」
- 都市像④ 災害に強く、回復力のある「安全安心都市」

都市像① 地域の魅力が人をつなぐ「活力交流都市」

多彩な個性や活力

- 本区には、市街地形成の経緯の違いから、集合住宅が中心のまち、戸建住宅が中心のまち、都市農業が盛んなまち、親しみのある商店街のあるまち、ものづくりを支える町工場が集まったまちなど、地域ごとに多彩な個性や活力があります。地域間の活発な交流を促進することは、都市の活力創出につながります。

付加価値の高い都市生活の実現

- 駅周辺などの拠点における都市機能の集積や更新を図るとともに、それらの各拠点を結ぶ交通インフラを強化することで各地域の魅力・活力を区全体で共有することができ、住み、働き、観て、楽しみ、学べるといった高付加価値の都市生活を送ることが可能となります。
- 付加価値の高い都市生活に憧れて、転入人口が増加することも期待されます。

本区の地域ごとの魅力・活力をさらに高めるとともに、地域間の交流を促進することにより、地域の魅力が人をつなぐ「活力交流都市」を目指していきます。

都市像② 温かな地域コミュニティが支える「生涯生活都市」

まちづくりを支えるコミュニティ

- 本区には、子育て、福祉、地域交流、防災など暮らしやすさや安全・安心を支えるコミュニティが息づいています。
- 人口減少・超高齢社会を迎えるなか、人と人の支えあいが基盤とするコミュニティは、温もりのある地域社会を形成する上でいっそう重要なものとなります。

満足度の高い暮らしができるまちづくり

- 地域コミュニティが自ら地域課題の解決に取り組むことで、地域の特性に根ざした地域固有の価値が生み出されます。
- 地域の個性や魅力を磨くこととなり、誰もが生涯にわたって、満足度の高い暮らしができるまちの実現につながります。

多様な主体のまちづくりへの参加を促進することや、多世代交流の場を設けることにより、地域コミュニティの担い手の厚みをいっそう高め、温かな地域コミュニティが支える「生涯生活都市」を目指していきます。

地域力で育む 暮らしやすいまち 活力あふれるまち 江戸川

都市像③ 水とみどりが暮らしに憩いを与える「快適環境都市」

水とみどりを体感できる暮らし

- 本区は区民との協働のもと、親水公園、親水緑道、緑道や公園、街路樹など水とみどりの環境づくりを進めてきました。
- 四季の彩りを感じながらの散策、子ども達の水遊び、ファミリーでのお出かけ、近所の人とのおしゃべりなど、地域住民にとって快適で居心地の良い空間が生まれています。

次世代に引き継ぐ資産としての快適環境

- これまで区民との協働で育んできた水とみどりを大切に保全し、残していくことで次世代へ続く快適な環境を支えることができます。

今後も区民と区が協働しながら、これまで育てたみどりの質をよりいっそう高めることにより、水とみどりが暮らしに憩いを与える「快適環境都市」を目指していきます。

都市像④ 災害に強く、回復力のある「安全安心都市」

ハードとソフトの両輪による災害に強いまち

- 区民が安心して住み続けることができるよう、地震・水害の両面からハード面での都市基盤整備を着実に推進してきました。
- 老朽化が進む公共施設や都市基盤の適切な維持管理・更新が重要です。
- 近年の災害の教訓として、自助、共助及び公助の連携の重要性が指摘されています。
- 区民一人ひとりの防災意識を高めながら、ソフト面での防災力を強化していくことも重要です。

災害からの回復力のあるまちづくり

- 大規模な災害が発生した場合は、直後の応急対策や復旧対策に加えて、早期の生活の再建のため、都市の復興に着手することも大切です。このため、区民と区が協働で復興都市づくりに取り組むことができるよう、平常時からの備えが重要となります。

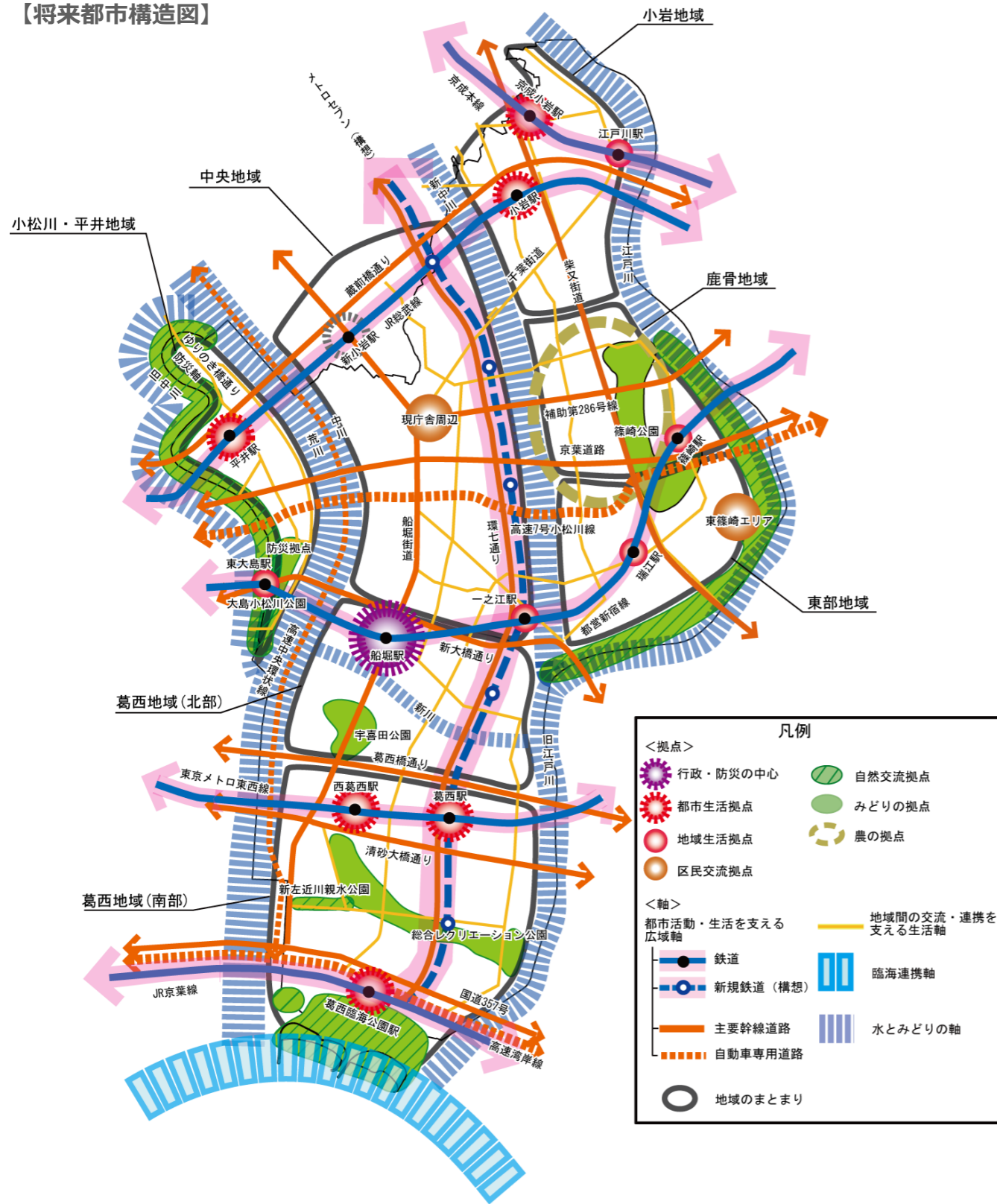
災害が起きても、被害を最小限にとどめ、区民の日常生活を迅速に回復できる「安全安心都市」を目指していきます。

1-2 将来都市構造

【都市構造を構成する要素】

- 活力と快適環境を創出する「拠点」
- 拠点間を連携する道路・鉄道ネットワークと、河川など自然のネットワークである「軸」
- 身近な生活圏となる「地域のまとまり」

【将来都市構造図】



【拠点】

- 行政・防災の中心**
今後行政機能が移転し、災害時には区全体の防災活動の中核としての役割を担う船堀駅周辺を「行政・防災の中心」として位置づけます。行政機能の移転に併せて、商業、業務、文化、居住機能などの集積を誘導し、従来からの工業的土地利用との調和を図りながら、区内外の交流や情報発信の拠点を形成します。
- 都市生活拠点**
葛西駅、西葛西駅、平井駅、小岩駅、京成小岩駅、葛西臨海公園駅の各駅周辺を「都市生活拠点」として位置づけます。商業、業務、流通、文化などの多様な都市機能の集積を図り、区内外の交流が行われる拠点を形成します。
- 地域生活拠点**
東大島駅、一之江駅、瑞江駅、篠崎駅、江戸川駅の各駅周辺を「地域生活拠点」として位置づけます。日常生活に密着した身近な商業機能や生活関連施設などの立地を誘導し、周辺環境と調和した拠点を形成します。
- 区民交流拠点**
今後行政機能が移転する現区役所本庁舎周辺と東篠崎エリアを「区民交流拠点」として位置づけます。公共施設の用地の有効活用を図りながら、文化やスポーツなどの交流施設と併せて新たな区民のにぎわい拠点を形成します。
- 自然交流拠点**
葛西臨海公園、葛西海浜公園、カヌー・スラロームセンター、新左近川親水公園、江戸川・旧江戸川の一部、旧中川を「自然交流拠点」として位置づけます。水辺環境を活かしながら、区内外から多くの人々が訪れ、スポーツやレクリエーションによる交流を楽しむことができる自然空間を形成します。
- みどりの拠点**
大規模な公園である篠崎公園、宇喜田公園、大島小松川公園、総合レクリエーション公園を「みどりの拠点」として位置づけます。自然交流拠点のみどりとつながりを保ちながら、各公園がもつ機能の特長を活かし、多様な機能で自然に親しむことができる空間を形成します。
- 農の拠点**
特産である小松菜、花卉をはじめ、各種農産物を生産している農地が集積するエリアを「農の拠点」として位置づけます。農地の保全を図りながら、農業に由来する歴史・文化の体験機会の創出や農と触れ合うことのできる空間、農と一体となったまちなみ景観を形成します。

【軸】

- 都市活動・生活を支える広域軸**
広域的な都市間を連絡し、業務などの都市活動や通勤・通学などの生活行動を支える交通の軸（鉄道、自動車専用道路、都市間を連絡する道路）を「都市活動・生活を支える広域軸」として位置づけます。東京都心部や都県境橋梁の整備促進による隣接都市間との連携強化を図るとともに、メトロセブンの整備実現を目指し、区内の南北交通の充実と東京圏における鉄道ネットワークを強化します。
- 地域間の交流・連携を支える生活軸**
「都市活動・生活を支える広域軸」と交差し、地域の拠点を結ぶ交通の軸（区内の地域間を連絡する道路）を「地域間の交流・連携を支える生活軸」として位置づけます。各地域からの拠点への連絡性の強化を図り、区内の一体性を高めます。
- 臨海連携軸**
東京2020大会会場が集積するエリアと連携する軸を「臨海連携軸」として位置づけます。東京2020大会を契機としながら、東京湾の沿岸地域との観光・レクリエーション面での連携を図り、広域的な交流ネットワークを形成します。
- 水とみどりの軸**
荒川・中川、江戸川・旧江戸川、新中川、旧中川、新川を「水とみどりの軸」として位置づけます。生態系など環境の保全や水辺に親しむことができる環境を充実するとともに、観光資源としても活用し、水辺を活かしたにぎわいを創出します。

【地域のまとまり】

地域ごとの特性やこれまでのまちづくりの経緯、河川などの地形地物を踏まえ、区内を「小松川・平井地域」、「中央地域」、「葛西地域(北部)」、「葛西地域(南部)」、「小岩地域」、「鹿骨地域」、「東部地域」の7地域に区分し、それぞれの地域特性を踏まえたまちづくりを進めます。それぞれの地域の中では、学校教育、生涯学習、健康・福祉など公共施設の適正配置や鉄道駅周辺の拠点性の向上などを通じて、区民の地域交流の場・機会の充実を図るとともに、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができる住環境の形成を図ります。

